

日本地衣学会

No.60

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会員通信.....	211
	台湾地衣類調査行2005(その3)/原田浩.....	211
	ミニコテ, ミクロアルコールランプの代替品として/原田浩.....	213

会員通信 From Members

台湾地衣類調査行 2005 (その3)

大型地衣を存分に楽しんだ高山を去り、4月17日には北部へ移動、今回の旅行の主目的である低地での調査が待っていた。基隆の暖暖は、予想通り淡水生地衣類は今ひとつであった。そこで、次の陽明山の話を見せていただく。

意外だった陽明山

陽明山(Yangming-shan)は台北の北、台湾最北部にある火山性の山地である。主峰はその昔、草山(そうざん)と呼ばれたように、山頂部は樹が生えず草原が広がっている。ここからは、この地名にちなんだ地衣類の新種が記載されている。例えば関東以西の低地から知られる *Graphina soozana* (= *Diorygma soozana*) がその一例である。

この山の温泉はあまりにも有名である。今回が3度目の台湾になるが、前回・前々回の滞在中にも、ここが温泉であることを頼さんから聞いていた。そのイメージがとても強かったので、溪流も温泉水の影響があり淡水生地衣類の生育は期待できないかと思っていたのだが・・・幸いにも予想は大はずれであった。3日間かけて北麓と南麓とで調査を行い、多くの淡水生地衣類の試料を得ることができたのだ。

淡水生種のこととは後ほど紹介するとして、ここでもまた、ちょっと寄り道をさせていただく。

李さん一家

さて、ここでも多くの方々にお世話になることになった。陽明山国家公園管理处の方々、それから頼さんの学生の李佩芳 Lee Pei-Fang さんとそのお父さんの李振銘 Lee Cheng-Ming さん(図1)。李さんは退役軍人でドライブが好きなのだという。お言葉に甘えて、調査に同行していただくことになった。一方、お嬢さんの李佩芳さんは、地元の大学出身で、今は台中にある東海大学の大学院生として頼さんの指導の下、陽明山の景観の変遷を研究するのだという。この機会に彼女は国家公園管理处のスタッフにいろいろと教えてもらっていたようだが、2日ほど私の調査に付き合ってくれた。地衣類の調査を見るのは初めてなのだという。私の調査の様子が印象深かったようで、その晩はなかなか楽しいものをいただいた。イラストだった。ぜひ学会のニュースレターに掲載したいと私が言うと、「エーッ」と言いつつも書き直して渡してくれたのが図2である。陽明山の溪流で、調査用具などを右に左にぶら下げながら、右手にハンマー、左手にタガネを持ち、岩に着く地衣類をまさ



図 1. 李さん親子。

に採ろうとしている私の姿らしい。李佩芳さん、かわいいイラストをありがとう。

念願のミドリサネゴケ属

今回の調査旅行は、かつて Bouly de Lesdain (1921)によって台湾北部でフランス神父 Faurie が採集した標本に基づき記載されたアナイボゴケ科ミドリサネゴケ属の一種、*Staurothele fauriei* de Lesd. の生育地調査だった。京都大学の Faurie コレクションの

該当する標本番号の標本は 2 点あるのだが、いずれも *Staurothele* ではなく、実体がよく判らない種である。これを基準産地の周辺でどうしても再発見したかった。

前述のように 17 日の暖暖では発見できなかった。おそらく環境破壊、水質悪化に起因するのだろう。しかるに、陽明山周辺では、念願の *Staurothele* を 2 地点で発見することができた。

日本産のミドリサネゴケ *Staurothele iwatsukii* H.Harada は例えば四国の四万十川、広島県北西部の冠山周辺の中津谷溪谷、長良川などの中から上流で、比較的開けた河畔の岩上では、カワイワタケ *Dermatocarpon miniatum* (L.) W.Mann などと一緒によく見られる。そこで、暖暖は水質を除けばこの条件にぴったりだったので期待したのだが・・・。一方、陽明山の山麓の産地では、比較的狭い溪谷で、頭上が木々に覆われ、半日陰、流量は比較的安定しているように見受けられた。この違いは意外であった。さて、ここではカワイワタケは見られないが、紅藻の *Hildenbrandia* と隣接して生えていることが多かった。この紅藻は流量の安定した清流の細流では、淡水生アナイボゴケ属と共存しているのが、日本の温暖な地方ではよく見られる光景である。

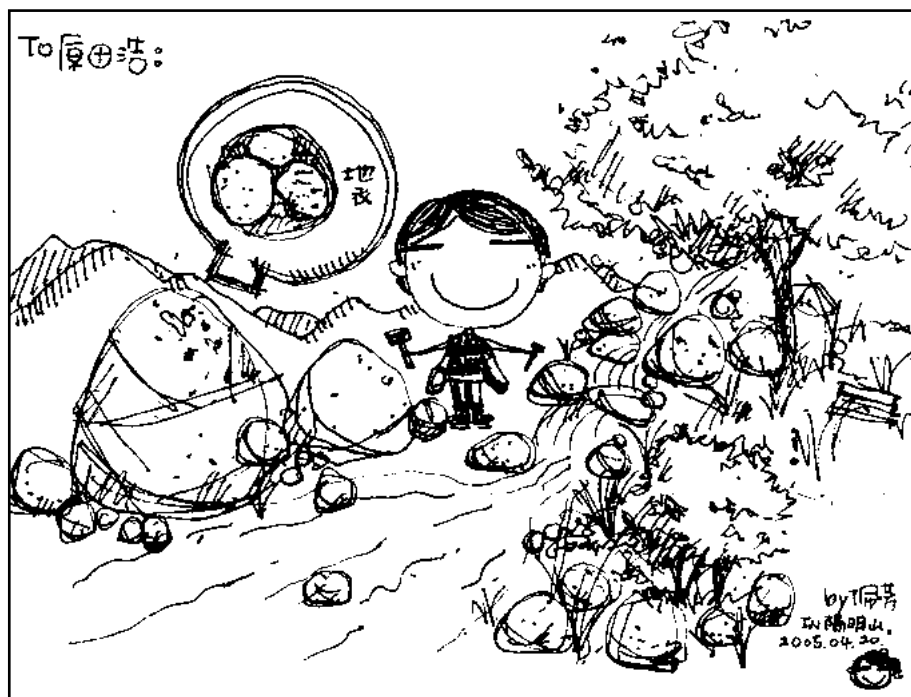


図 2. 陽明山の溪流で地衣を調査する著者。Illustrated by Lee Pei-Fang.



[左] 図 3. 陽明山南部の渓谷。木々に半ば覆われる清流に転がる岩上に、ミドリサネゴケ属があった。

[上] 図 4. ミドリサネゴケ属の生育状況。岩の水際は暗赤色の *Hildenbrandia* が生え、少し上には灰緑色のミドリサネゴケ属が丸い地衣体を広げていた。

う。今回もたくさんの方々に来ていただいた。頼さん、李さん親子（じつは奥さんにも）、陽明山国家公園管理処の皆さん、頼さんの部下の I-Chen Hsueh さん（パソコンで苗字の漢字が出なかったのでごめんなさい）、・・・皆さん、ありがとうございました。

（原田 浩：千葉県立中央博物館）

* * *

さて、これで私の 2005 年の台湾の旅の終章としよ

ミニコテ、マイクロアルコールランプ代替品として

すごく良いものを見つけた。「ミニコテ」だ。クラフトワークなどに使うものらしいが、ちょうどマイクロアルコールランプの代用品としてちょうど良い。いや、火を使わないので、こちらのほうがお勧めである。石崎電機製作所製の「手芸用ミニこて（TS-32）」がそれ。インターネットで見つけたものだが、東京に住む加藤裕一さんに秋葉原で買ってきてもらった。3360 円だった。これを大きな金属製のクリップで挟み、100 円ショップで買ってきたオープン用の網に園芸用の針金で縛りつけたのが図 1 である。切片の GAW プレパラートを作るのにも都合が良いし、顕微結晶法で GE 液のプレパラートを熱するにも都合が良い、優れたものである。

どうしてこんなものを探し出したのかと語り始めると、ちょっと長くなってしまいかもしれないが、スペー

スの許す範囲内で紹介させていただこう。

私の勤める千葉県立中央博物館では、地衣類標本は、温湿度が管理された第 3 収蔵庫というところで保管していることは既に本誌 20 号で述べた。ご存知のとおり地衣類の標本を調べるときには、切片のプレパラートを作ることも多く、このときマイクロアルコールランプを使用する。そのため、火気厳禁の収蔵庫内では作業ができない。そこで、必要な標本を収蔵庫から持ち出し、実験室で調べるわけだ。一方、実験室は空調に問題があり、特に梅雨時には湿度 75% を超す日が続くこともまれではなく、標本害虫のコナチャタテなどが殖えやすい環境にある。そこで研究が終わったあとは、防虫のために（上述のコナチャタテや、さらに恐ろしいタバコシバンムシなどの混入の可能性があるので）乾熱滅菌器で熱をかけ



図 1. ミニコテ。コテ先が使いやすい向きになるよう台に固定した。

てから収蔵庫に戻すことにしている。ところが幾つもの仕事を平行してこなすことも多いので、ついつい標本を何ヶ月も実験室に一時保管することになり、その間に、標本書虫の害にあう可能性が高まるというわけだ。これまで実際に少し害を受けた標本もあった。これを改善するには、仕事をスピードアップできれば話が早いのだが、実際にはそうは行かない。そこで、火気厳禁の収蔵庫内でプレパレートを作れるように、つまりアルコールランプを使わないで済むような方法を模索していたのだ。

維管束植物の標本を台紙に貼るときに、ラミントンテープというもので貼るのだが、その時に半田ゴテの先を加工したものを当館でも使っていたことをある時、思い出した。ラミントンテープ用（つまり標本貼付用）のコテは 2 万円以上するらしいのだが、その昔、当館開館の頃に千葉の業者に作らせた粗悪品（ラミントンテ

プを貼るときに、ちょっと具合が悪いのだそうだ）が余っているというので、使ってみると、なかなか具合が良い。そこで 3 つ借りることにした。しかし借り物は、いつかは返さなければならない。そこで、適当な販売品は無いものかと、インターネットで調べた結果、本品に行き当たったと言うわけだ。

以前から私は、アルコールランプを使うことに関して、一種の不安のようなものを抱いていた。いつかアルコールランプを倒して、火事かボヤにでもなるのではないかという不安である。このミニコ

テによって、この不安は和らぎ、また、収蔵庫内でのプレパレート作製という、（私にとっては）快挙を成し遂げたわけである。防火対策が十分ではない部屋で実験をせざるを得ない方々には、まさにお勧めである。

これには余禄もある。今年の 8 月の土日に、「地衣分類研修」という行事を実施することができたのだ。これは、収蔵庫内で多数の標本を見て勉強していただくという企画であり、庫内に常置できる生物顕微鏡と実体顕微鏡のセット数にあたる 3 名を定員として実施することにした。庫外に標本を持ち出す必要が無い（つまり再度持ち込む時に熱殺虫処理をする必要がない）ので、常に庫内全ての標本を活用できることになった。

（原田浩：千葉県立中央博物館）

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌42号148ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 42, p. 148 of this publication.

日本地衣学会ニュースレター 60号

発行日：2005年 12月 12日

編集：原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄
発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内